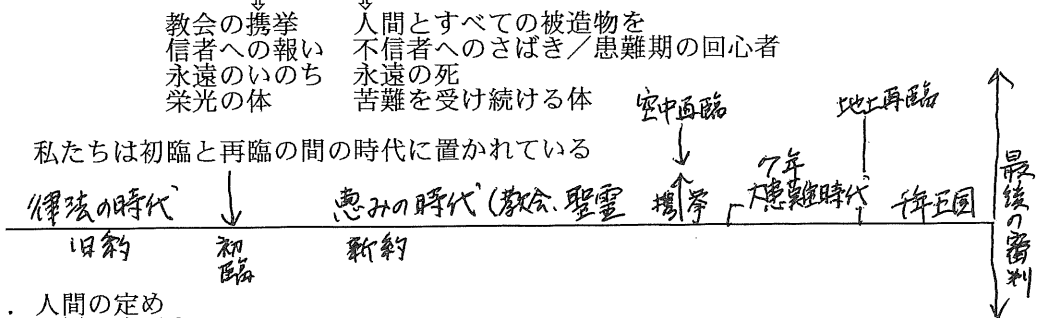


再臨の主を待ち望む

2023年1月1日

ヘブル人への手紙 9章26b～28節
テサロニケ人への手紙Ⅰ 4章13節～5章11節

序：新年に想うこと＝終わり（この世界、私の人生）
キリストの初臨（降誕）→ 救い主として
キリストの再臨（空中・地上）→ さばき主として



I. 人間の定め

(1) 一度死ぬ

- 人間の死
- ① 霊的死……生まれながらに神を無視し、神に背く性質（原罪）
 - ② 肉体の死……長短はあるが、人は例外なく体の死を迎える
 - ③ 永遠の死……霊的に死んでいる者が罪を持ったまま肉体の死を迎える時、永遠の死（第二の死に行く）

一度生まれる者は、二度死ぬ = キリストを信じない人
二度生まれる者は、一度だけ死ぬ = キリストを信じた人

∴ヘブル9・27の「一度死ぬ」は肉体の死（信仰者も体の死はある）

(2) 死後にさばきを受ける

- さばき
- ① 信仰者は報いをいただく（救いを取り上げられることはない）
地上で行った行いに応じて報われる（報いは同じではない）
cf. タラントの喩え
キリストの空中再臨、教会の携挙の後
祝福：栄光の体を与えられ、永遠に主とともに御国に住む
 - ② 不信者はさばきを受ける
キリストを信じなかったから
永遠に神から断絶され、救いの機会はない
刑罰：体を与えられ、意識をもってゲヘナで永遠に苦しむ

II. キリストの来臨

(1) 初臨

多くの人の罪を負うため

↓
すべての人ではない（罪を悔い改め、イエスを主キリストと信じる人々を指す）
cf. マルコ 10・45 多くの人の贖いの代価として……
イザヤ 53・11、12 多くの人を義とし
多くの人々を彼に分け与え
多くの人の罪を負い

人間は自分の罪のために死ぬ
キリストは（ご自分の罪のためではなく）罪人の罪を身代わりに負って死んだ
進んできよいいのちをささげてくださった

(2)再臨

罪を負うためではなく = 罪を負う贖いの御業は初臨において完結
今度は彼を待ち望んでいる人々の救いのため



大患難期より前に携挙・救いの完成

公正・正義をもってさばく審判者として

Ⅲ. 待ち望む人々

(1)初臨の時 (メシアを)

①シメオン ルカ 2・25～35
イスラエルの慰められることを待ち望んだ
キリストを見るまでは死なないと聖霊のお告げ
イエスを腕に抱いて祝福・預言 (イエスの死)

②アンナ ルカ 2・36～38
女預言者、やもめ
宮を離れず、断食・祈り
エルサレムの贖いを待ち望んでいた

(2)再臨の時 (正しいさばき主を)

①教会時代・聖霊時代の聖徒たち

②私たち

初臨の時も再臨の時も、主イエス・キリストの現れを切望している人達は以外に少ない？

目先のこの世のこと、肉の思いを満たすこと、自分を中心としたあれこれに気をとられ、心を奪われ、時間も賜物も永遠のことには用いない
時代が違っても、人の心、態度はほぼ同じ？

Ⅳ. 今日の聖徒である私たち

この世の殆どの人々は、無関心、嘲り、本当ならと恐怖
キリストの教会でも語られず、再臨に関して無知、避ける傾向

×何もわからないから尋ね求めない
×憶測やこの世の状況に無理に結び付けて解釈

○聖書 (神のことば) に聴く
主の再臨を希望と確信をもって待ち望もう

誕生

新生

聖化 (聖霊による)

召天・栄化



バプテスマ

私たちは、本国へ帰る旅の途上、まだ着いていない

主がその旅人のために備えてくださったのが、聖化の恵みの手段＝聖餐

今日は今年最初の月の第一主日

罪人である私のためにいのちをささげてくださった贖い主の御業に感謝し、
具体的な罪の悔い改めと献身の思いを新たに、来たるべきさばき主を待ち望む
ところとして、主が招いてくださる食卓にあずかり